試料の最大酵素活性を示すpHに調整した0.005mol／Ｌ酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液を加えて溶かし、必要ならばろ過し、試料溶液とする。」とあるのは「試料1.0ｇ（0.995～1.004ｇ）に、試料の最大酵素活性を示すpHに調整した0.2mol／Ｌ酢酸・酢酸ナトリウム１Ｌ当たり、ポリソルベート20を0.1ｇの割合で含む緩衝液を加えて溶かし、必要ならばろ過し、１mL当たり0.04～0.06フィチン酸分解力単位となるよう同緩衝液で希釈し試料溶液とする。」と読み替えるものとする。

(ｲ)　保存の方法の基準

フィターゼ（その２の(4)）製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

(ｳ)　表示の基準

本品の直接の容器又は直接の被包に、最大の酵素活性を示すpH値（小数点以下第１位まで）を記載すること。

ウ　製剤（その２）

(ｱ)　成分規格

本品は、フィターゼ（その２の(4)）製造用原体に、ポリビニルアルコール、フィチン酸ナトリウム、リン酸一水素ナトリウム、リン酸二水素ナトリウム、リン酸一水素カリウム、リン酸二水素カリウム、イノシトール、植物性油脂、白糖及びデンプンを必要に応じて選んで混和した水溶液を加え、さらに、硫酸ナトリウム及び必要に応じて賦形物質を加えて混和若しくは造粒した小片、粉末又は粒子である。

酵素力単位　本品は、酵素力試験を行うとき、表示フィチン酸分解力単位の85～170％を含む。

酵素力試験　フィチン酸分解力試験法第１法により試験を行う。ただし、「基質溶液の調製」の項中「試料の最大酵素活性を示すpHに調整した0.2mol／Ｌ酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液約50mLを加えて溶かし、0.2mol／Ｌ酢酸試液を加えてpH5.5に調整した後、」とあるのは「pH5.5に調整した0.2mol／Ｌ酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液約50mLを加えて溶かし、0.2mol／Ｌ酢酸試液を加えてpH5.5に調整した後、」と、「操作法」の項中「試験を行うために必要な量の試料を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度が0.04～0.06フィチン酸分解力単位となるように、試料の最大酵素活性を示すpHに調整した0.005mol／Ｌ酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液を加えて溶かし、必要ならばろ過し、試料溶液とする。」とあるのは「試料1.0ｇ（0.995～1.004ｇ）に、試料の最大酵素活性を示すpHに調整した0.2mol／Ｌ酢酸・酢酸ナトリウム１Ｌ当たり、ポリソルベート20を0.1ｇの割合で含む緩衝液を加えて氷中で60分間撹拌して溶かし、必要ならばろ過し、１mL当たり0.04～0.06フィチン酸分解力単位となるよう同緩衝液で希釈し試料溶液とする。」と読み替えるものとする。